

# 令和3年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

## 1 会議の概要

- (1) 開催日時 令和3年8月3日(火) 19:05～20:05
- (2) 開催場所 府中市役所4階第一委員会室
- (3) 出席者
  - 出席委員  
内藤賢一委員長、石原広一副委員長、木内良明委員、板橋千代美委員
  - 欠席委員  
前田嘉信委員
  - 説明のため出席した者  
(府中市病院機構)  
多田 敦彦 理事長、小森 祐一郎 事務局長  
(府中市)  
小野申人市長、唐川 平健康福祉部長、皿田敏幸医療政策課長、伊達武司  
医療政策係長、才木雅人主事

## 2 会議の内容

- (1) 協議事項  
令和2年度の業務実績評価(案)について
- (2) 報告事項  
令和3年度年度計画について(報告)

~~~~~

**唐川健康福祉部長(以下「進行」という。):** それでは、定刻となりましたので、只今から令和3年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開会いたします。

午後7時5分

~~~~~

**進行:** 委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本評価委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、府中市健康福祉部長の唐川でございます。

議事に入りますまでの間、私が進行させていただきます。円滑な進行を心掛けてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

まずはじめに、前任の金澤委員に代わられまして、今年度から新たに岡山大学病院病院長の前田嘉信様に評価委員に御就任をいただいております。

本日オンラインでの御出席をいただく予定でしたが、御親族に御不幸が

あったとのことで、急遽御欠席の連絡をいただいております。

また、木内先生におかれましても、ちょっと連絡を差し上げてるんですがいまだに御参加いただけておりません。

連絡を取らせていただきまして、御参加いただき次第御利用いただくということを考えておりますので、御了承いただきたいというふうに思います。

それでは、委員の皆様の出欠について御報告させていただきます。

先ほども申し上げましたが、本日は前田委員が欠席される旨の連絡がございました。また、木内委員におかれましては、今まだ入っておられません、この後に御参加いただく予定でございます。そのほかの皆様方には本日御出席をいただいております。どうも大変ありがとうございます。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

次第、委員名簿、資料1から資料6、それから参考資料も1から4までを配付をさせていただきますが、皆様方、それぞれでございますでしょうか。

不足の資料がございましたら、会議途中でも構いませんので、事務局までお知らせいただければと思います。

なお、本日の会議につきましては、事前にお知らせしておりますように、報道関係者の傍聴を許可しております。

報道関係の皆様におかれましては、議事に入りましたら撮影禁止とさせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

~~~~~

それでは、開会にあたり、小野市長からあいさつを申し上げます。

**小野市長：** 委員の皆様には、何かとお忙しいところ、地方独立行政法人府中市病院機構の評価委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素より、府中市の医療行政に対しまして格別の御高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、移動を最小限にとどめるという観点から、木内委員、前田委員には、Webでの御参加をいただくように予定をしていたところでございます。

御不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

さて、最近の情勢としまして、東京オリンピックによる熱戦が続いている一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いているところでございます。一日の新規感染者数の更新が日々報道され、広島県におきましても感染拡大が続く中、7月31日から早期集中対策に取り組んでいるところでございます。

府中市におけるワクチン接種の状況につきましては、府中地区医師会の御協力をいただき、希望者全員への早期のワクチン接種完了を目指して取り組んでいるとこ

でございます。接種率につきましては、高齢者については85%を超え、また12歳以上につきましても、接種、予約者も含めると58%の接種率となる見込みで、ワクチン供給スピードが停滞する中にありまして、何とか順調に接種が進んでいる状況でございます。

府中市病院機構におきましても、ワクチン接種への積極的な御協力をいただくとともに、昨年度の早期から、感染が疑われる発熱患者の診察やPCR検査の実施、また府中市民病院における陽性患者の受け入れなど、新型コロナウイルス感染症への一連の対策に献身的な対応をいただいております。府中市といたしましても、感謝を申し上げますとともに、公立病院としての両病院の存在のありがたさを改めて感じているところでございます。

本日の評価委員会につきましては、市といたしまして、こういった取組なども含めました令和2年度の実績の評価をいたしましたので、その評価案に対しまして委員の皆様からの御意見を頂戴し、最終の成案といたしたいと考えております。

委員の皆様方には、府中市病院機構の今後の業務運営なども含め、活発な御議論をいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、開会に当たってのあいさつとさせていただきます。

本日は、よろしくお願ひいたします。

~~~~~

**進行：** つづきまして、内藤委員長からごあいさつをお願いいたします。

**内藤委員長：** 評価委員長の内藤でございます。

委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの会議開催にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の評価委員会は、令和2年度の府中市病院機構の業務実績に対する市の評価への御意見や御助言などをとりまとめていきたいと思っております。

委員の皆様のお協力をよろしくお願ひいたします。

**進行：** ありがとうございます。

なお、木内先生、今入っていただきました、先生お声が聞こえますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

木内先生に改めまして御案内をさせていただきます。本日、岡山大学病院病院長の、これまで金澤委員がお務めいただいておりますが、今年度から前田嘉信様に評価委員に御就任をいただいております。

前田委員にも本日オンラインでの御出席をいただく予定としておりましたが、御親族に御不幸がおありだったとのことで、急遽御欠席というふうになっております。

冒頭お知らせをしておきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、今日はよろしくお願いいいたします。

以降の進行につきましては、内藤委員長にお願いいたします。

なお、撮影はここまでとさせていただきますので、報道関係の皆様は所定の席での傍聴をお願いいたします。

それでは内藤先生、よろしくお願いいいたします。

~~~~~

**内藤委員長：** それでは、これより議事に入ります。

協議に入る前に、本日の評価委員会について、事務局から説明をお願いします。

**事務局：** 失礼いたします。

府中市医療政策課の皿田と申します。本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

それでは、議事に先立ちまして、本日の評価委員会の主な内容につきまして説明をさせていただきます。

資料1、『地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会について』と題しました資料をごらんください。

2番目の項目で当評価委員会の所掌事務の主なものを記載しておりますけれども、このうち本日評価委員会の皆様に御意見をいただきますのは、(3)の「当該事業年度における業務の実績及び中期目標の期間における業務の実績に係る市長による評価の際に意見を述べる」という項目になります。

ただし、本日の議題には『中期目標の期間における業務の実績』というものがございませんので、その下の「3 令和3年度における評価委員会の目的・役割」に記載をしております(1)の令和2年度の事業報告について市長が業務実績を評価するに当たり、評価委員会の御意見をいただくというものです。

詳細につきましては後ほど説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいいたします。以上です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。

それでは、以降はお手元の次第に沿って会議を進めたいと思います。

(1)の『①令和2年度の業務実績評価（案）について』を議題といたします。

まず府中市病院機構から令和2年度の業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価案について説明を受けた後、委員の皆様から評価案についての御意見をいただきたいと思います。

それでは、府中市病院機構から、資料2の事業報告書について簡潔に説明をお願いいたします。

**多田理事長：** 府中市病院機構理事長の多田です。よろしくお願いいいたします。

それでは資料2の、3ページの下から4行目辺りから説明させていただきます。

まず機構の収支についてでございますが、令和2年度は、経常収支比率100.

2%を目標としておりましたが、コロナ禍にありまして、4月、5月、6月の医業収入が落ち込み、府中市民病院、北市民ともにかなり落ち込みまして、ただそのあとは相当回復してきまして、この102%を達成する月も4回ほどあったんですが、それでもトータルしてみますと、市からの繰入金4億7,300万円を含めた実績は96.9%で、1億2,200万円の赤字決算というふうなことに終わっております。

各病院ごとに見てまいりますと、府中市民病院では、前年度比較で、医業収益が6,400万円の増というふうに頑張ったんですが、医業費用もかなりコロナ対策で嵩みまして7,200万円の増となりまして、医業収益の内訳としましては、入院収益は1億200万円の増と頑張っておりましたが、外来の方は受診控えなどもありまして、収益は3,300万円の減となっております。

赤字額は前年度比較で7,000万円の減となりましたが、赤字決算ということになっております。

府中北市民病院につきましては、前年度比較では、医業収入は1,600万円の減、医業費用も600万円の減でありました。入院収益が2,200万円の減、外来収益も100万円の減でございました。しかし、訪問看護や居宅介護事業所の収益が800万円増というふうに頑張っております。

赤字額は前年度比較で700万円の増ということ、かなり小幅に進んだというふうに頑張っております。

それから大項目ごとの特記事項でございますが、まず『住民に対する提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』でございます。

令和2年度につきましては、両病院とも、コロナ禍における医療の継続と、そして府中地区への医療提供体制の維持に努めました。府中市民病院では、接触者、帰国者のPCR検査、それから発熱がある患者さんの診療受入、そして新型コロナに感染した方の入院受入というふうなことで、病床の一部を専用病床に改修して地域に必要な病床の確保に努めました。

しかし、実績としましては、整備した直後第3波が終息したということもありまして、令和2年度につきましては受入実績というのにはございません。ただ令和3年の4月からにつきましては、第4波についてはほぼ満床に近いぐらいの受け入れ。そして最初のうちは軽症者のみというぐらいなことで予定をしておったんですが、かなり中等症以上の方、そして高齢者の方では看取りまで行うというようなこともございまして、かなり職員の方は大きな負担になったかというふうに思っております。

それから北市民病院につきましては、マンパワーの件、それから入院の患者さんが高齢ということもありまして、院内のクラスター発生を防ぐという意味で入院の

受け入れは行っておりませんが、発熱のある方の外来診療、そして必要に応じた抗原検査なども行っております。

それから一番下のところまでいきますが、救急につきましては救急科の常勤医師が在任しているということもありまして、府中市民病院の救急車の受け入れ、例年大体年間250台ぐらいだったんですが、1年で488台という非常に多い救急車の受入実績を築くことができました。

また、医師の診療体制につきましては、かなり常勤医師が増えてきております。府中市民病院につきましては、令和2年の4月から県からの内科常勤医師の着任、そして婦人科の医師が短時間勤務からフルタイムにかわっての常勤、そして10月には耳鼻科の常勤医師が着任しております。また令和3年の4月からは、外科の医師が2名、内科医師の1名の常勤医師が着任しております。

また、府中北市民病院では、令和3年の5月からは眼科診療が開始しております。また令和元年の9月から、府中北市民病院の4階、古い病棟のところを改修して、17室のサービス付き高齢者住宅を開始しております。この年度末で17室のうち15室が埋まって、あと1室は府中市が借り上げて緊急の場合に備えている部屋がありますので、実質空き部屋は1室のみということではありますが、令和3年度に入ってからそれはそれも埋まって、現在ほぼ満床というふうな状況であります。

それから『業務運営の改善及び効率化に関する事項』としましては、府中市民病院では、外部から看護師に、これまで複数の病院で看護部長を経験され、また病院機能評価のサーベイランスをされてるという非常に経験豊かな看護師の方をお招きしまして、プロジェクトマネジャーという地位に就いていただいて、看護部の組織改革、それから患者満足度、それから接遇、それからインフォームドコンセント、医療安全、感染、災害対策と、いろんな項目のマニュアルの改訂から職員の教育にまで精力的に頑張らせていただいております。また北市民病院にも、そういういろんな指導をしていただいております。本当に大きな戦力になってきております。

ただ財務内容につきましてはかなり厳しいものがございます。特に、2016年に市民病院が、改築してかなり多くの整備が行われました。そういったものの返済ということでキャッシュが回りにくくなっているということで、市から3億5,000万円の長期借入をするということに至っておりますが、その返済につきましても、来年度ぐらいでピークを超えますので、そこからは大分楽になってくるというふうに考えております。

それから年度ごとの項目についてはざっといきたいと思っております。入院・外来についての人数は、特に外来の方が、どうしても診療控え、それと外来で密になることを避けるためにこれまでの処方間隔を倍に延ばすとかいうことで、ちょっと外来の密を減らすというようなこともあったんで、かなり外来数は減っております。

救急については先ほど申しましたように、府中市民病院での救急受入は伸びております。また、防災、災害に対しても、備蓄品の選定数量などを確保しております。

それからへき地医療につきましては、引き続き準無医地区の巡回診療、久佐地区、協和地区への巡回診療を継続しております。

それからあとは、周産期、そして在宅、検診などにつきましてはまたごらんいただければと思います。

最後に、府中市民病院の今後のあり方については、私たちは、府中市病院機構のあり方としては、公・民の適切な役割分担のもとに地域において必要な医療提供体制の確保を図り、その中で、公立病院が安定した経営のもとで、へき地医療、不採算医療や連携による高度先進医療などを提供する役割を継続的に担っていくというふうに考えております。

このため、医師を初めとする必要な医療スタッフを適切に配置できるよう必要な医療機能を備えた体制を整備するとともに、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指していきたいというふうに考えております。

概要ということで、ちょっと時間も少ないんで申し訳ありませんですが、以上に、私の方からの説明とさせていただきます。

ありがとうございました。

**小森事務局長：** 続いて、府中市病院機構事務局長の小森です。

私の方からは、経営成績についてということなのですが、先ほど理事長がかなり経営成績についても説明されましたので、令和2年度の経営成績について法人はどう考えてるかいうところを簡単に説明したいと思います。

同じ資料2の事業報告書の13ページの下から3行目、『第4 財務内容の改善に関する事項』のところです。

法人の経営成績は、収支計画では4,200万円の黒字を目標にしていますが、決算では約1億2,200万円の赤字となり、経常収支比率は100.2%の目標に対して実績は96.9%となりました。

しかし、1年間の月ごとの経営成績では、コロナ禍に対応し、診療や病床制限を実施せざるを得なかった状況にあっても、月単位でいえば4か月は経常収支比率の目標100.2%を達成しており、法人としては、法人が有する人材、施設設備を十分活用することで黒字化は図れるものと判断しています、とまとめています。

ただ、赤字決算が続きますとどこに影響が出るかということ、今度は資料、飛びますけど、参考資料1の財務諸表等の表紙なんですけど、大分先なんですけど15ページですが、ここに長期借入金の明細というのがあります。これを見ていただくと、この表の一番下の計のところなんですけど、計のところの一番左の数字、11億8,000万幾らというところなんですけど、これが、法人が期首で抱えてる長期借入

金の残高でした。

計画では、令和2年度で約4億円返済して、長期借入金を合計で3億円ぐらい減らしたいという計画にしましたが、結果、経営成績の方で赤字決算が出ると、こういう長期借入金の返済の資金が不足してくるということで、左から2番目の数字を見ていただくと、これが令和2年度に借入れた長期借入金の合計額3億9,300万なんですが、その中で、2行目に3億5,000万という数字があります。これが、左の銘柄というところを見ていただくと、令和2年度、運営費借入金ということで、資金繰りができないということで、令和2年度、法人になって初めて市の方から長期借入金3億5,000万を借りて資金繰りを行ったということで、令和2年度、3億9,300万幾ら借りることになりました。その右側が本来令和2年度で償還する予定だった3億9,900万、4億円の償還です。

ということで、本来はもっと、3億円ぐらい長期借入金が減る予定でしたけど、結果はその右の数字、11億7,300万ということで、期首と残高とほぼ同等の額の長期借入金の状態になってますということを報告させていただきます。

ただ、市の長期借入金3億5,000万については、償還期間を3年猶予の10年償還ということで、かなり後年度に対して負担が軽い形での借入れをさせていただきましたので、そういう面では、通常の長期借入金とは、返済の面で負担が軽くなってるということも併せて説明させていただきます。

以上です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。

それでは、続いて事務局から市の評価案について説明してください。

**事務局：** 失礼いたします。医療政策課の皿田です。座って説明をさせていただきます。失礼をいたします。

資料4を画面の方に表示をいたします。

それでは、令和2年度の業務実績に関する評価案につきまして説明をさせていただきます。

市の評価案につきましては、資料3『地方独立行政法人府中市病院機構 令和2年度業務実績に関する評価(案)』として作成をいたしておりますが、説明につきましては、今画面に表示をしております資料4『令和2年度の業務実績の評価について(概略版)』で説明をさせていただきます。

会議時間の都合上、主な点のみの説明とさせていただきますので、御了承いただければと思います。

まず左側の『総合的な評定』でございますけれども、ここでは全体的な評価をいたしております。

内容といたしましては、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により非

常に厳しい一年であった中、先ほど多田理事長の方からもありましたように、発熱患者の診察やPCR検査の実施、陽性患者受入れのための病床改修など、両病院とも公立病院としての責務を果たしている点は評価をするとともに感謝の意を表する、といたしております。

経営面といたしましては、感染対策や受診控えが病院経営に及ぼした影響は大きく、結果といたしまして、先ほど小森事務局長の方からありましたけれども、市からの長期貸付による支援を行うこととなりましたけれども、こうしたコロナ禍による影響は全国で生じている状況で、病院機構の経営努力の不足によるものではないとしまして、コロナ禍による影響がなければ収支はほぼ均衡していたものと考えて、といたしております。

医療提供体制の点では、令和3年度は独法化以来最も多い常勤医師数となる見込みで、着実に医療提供体制の整備が図られつつあるということなどを評価する点といたしております。

また、評価の度ごとに懸案事項としておりました市民から選ばれる病院づくりの取組といたしまして、先ほどもありましたけれども、看護部へのプロジェクトマネージャーの招聘や患者満足度調査に取り組んでおられまして、今後の患者満足度の向上と接遇の改善に期待する、といたしております。

続きまして、資料右側、『業務の実績に関する評価』といたしまして、一番上の『住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』につきましては、府中市民病院における、救急科への常勤医師配置による救急車受入件数及び婦人科外来・検診件数が目標値を大きく上回っている点、またへき地医療拠点病院としての巡回診療の継続、それから府中北市民病院におけるサ高住の入居者増と環境整備などを実績・成果として挙げておりますけれども、課題といたしましては、訓練や備蓄を初めとした災害対策が引き続き残っている点などを挙げております。

その下、『業務運営の改善及び効率化に関する事項』につきましては、実績・成果といたしましては、先ほども申し上げました、懸案でありました患者満足度調査の実施や接遇向上の取組の実施という点を挙げておりますけれども、課題といたしましては、市民が欲している情報の発信が足りないといたしまして、そういった情報の発信やアピールポイントについての積極的な発信に努められたい、といたしております。

最後に、一番下の段の『財務内容の改善に関する事項・その他業務運営に関する重要事項・予算、収支計画及び資金計画』につきましては、コロナ禍による影響が大きい中、経常収支比率目標を達成した月が4か月あった点などを実績・成果といたしまして、新型コロナウイルス感染症による今後の影響が不透明である中、計画的な投資に努めるなど自立した病院経営に向け努められたい、といたしております。

以上、甚だ簡単ではございますけれども、市の評価案についての説明とさせていただきますけれども、この評価のもととなりました内容につきましては、資料5『説明資料（府中市の評価案について）』に詳細を記載いたしております。

時間の都合上、資料の説明は割愛をさせていただきますけれども、御不明な点などは、この資料5を参考にしていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

**内藤委員長：** ありがとうございます。

それでは、令和2年度の病院機構の業務実績や市の評価について、委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

木内委員、よろしくお願いいたします。

**木内委員：** 広島大学の木内でございます。非常に御努力をされまして、病院の財務状況が改善しつつあるというようなことがよくわかりました。すごい努力をされているということもよくわかっております。

年々良くなってきているというのを示すには、単年度評価の、前年度との比較だけではなかなか、これだけ良くなっているというのを比較できないような気がします。5年ぐらいのトレンドで、収益が良くなってきているというのを示していただけると、そういったことも成績にもつながるのではないかなというふうにちょっと感じました。

要するに、働く医師を確保することで財務状況が改善するというところで、それに対しての御努力は非常に素晴らしいものがあるかなというふうに感じております。

私の意見は、今までに感じた意見は以上であります。

**内藤委員長：** ありがとうございます。木内委員からは、前年度の比較だけではなくて5年ぐらいの比較評価をしてはいかがかということだと思っておりますので、御検討の方…

**木内委員：** 評価がそういうふうになってくると…。

**内藤委員長：** そうですね、わかりやすいグラフとかをつくっていただければと。ありがとうございます。御検討、よろしくお願いいたします。

そのほかございますでしょうか。

石原委員、よろしくお願いいたします。

**石原委員：** 石原です。よろしくお願いいたします。

御報告の中で、府中市民病院の、事業報告書の3ページのところに、お話がありました入院収益が1億200万円増加をしているというようなお話なんですけど、これの原因というのはどういうところにあったとお考えでしょうか。そこを教えてくださいたいと思います。

**多田理事長：** いろいろと要因があるかと思っております。まず一つは、救急の受入れが増

えた。これ、ほとんどの方は入院につながります。そこが増えたということが一つ。

それから整形外科の手術が軌道に乗ってかなり増えて、その患者さんが増えてるということがもう一つと。内科につきましても段々と紹介なども多くなってきておりますので、そういったものが相まって、こういう入院日数についてはいい成績が出ていっているというふうに考えております。

**石原委員：** ありがとうございます。非常にコロナウイルスの関係が、病院の経営にはかなり影響があるように思っておりまして、外来の患者さんはどうしても少なくなると思うんですね。それから、入院もやっぱり減ってくるんじゃないかっていうふうに思ってたところが、入院収益が前年よりも増えておられるっていうのは、やっぱり内容が良くなっておられるんだなというふうに考えております。ただ現場の方は大変だと思うんですけど、すごく良くなってる印象がございます。

それから資金繰りのお話がさっきありまして、新年度の資金繰りについては、御予定というか、予想というものがありましたら教えていただければと思います。

**小森事務局長：** 今年度の資金繰りについては、毎月の医業収益の方が、府中市民病院だけで2億円、北市民病院を入れれば3億円弱ぐらいの医業収益があれば資金繰りに困らないような経営ができるというふうに見ておりますが、実際、もう既に8月に入ってますけど、4月、5月、6月の成績を見ると、そこまでに至ってないというところがありますので、特に入院の病床が結構空いてまして、これからそのあたりをどういうふうに対応していくかということにかかっていると思いますが、残り、目標の経営成績が出せるように、とにかく今は頑張っていくしかないと思っております。厳しい状況です。

**内藤委員長：** よろしいでしょうか。板橋委員、よろしく申し上げます。

**板橋委員：** 板橋です。よろしく申し上げます。

私も、コロナで全国的に病院経営が大変というニュースなどを聞いて心配しておりましたが、やはり府中市もそうなんだなということで、でもその中でも医師の方が増えられて、少し安定した傾向に進んでるなとは思いますが、一つ気になるのは、患者さんも受診控えがあったりする中で、職員の方の不安であったりとか精神的な部分に影響などはなかったでしょうか。

**多田理事長：** 特に直接的にコロナの患者さんを看るチームの看護師さん、それから外来でも疑いのある方を診る、発熱者を診る外来のスタッフなどについてはかなりナーバスになってます。

それについてもいろいろの、心の相談の窓口を設けたり、そういう専門家の方とも連携をして、いつでも受け入れるような体制もつくって、そういう職員の心のケアの方も心掛けております。

**板橋委員：** ありがとうございます。また先ほども少しお話くださったと思うんです

けれども、今年度のコロナなどの影響に対しての展望などがありましたら、少し詳しく聞かせていただけたらと思います。

**多田理事長：** 今年度がどうなるというのはなかなか難しいところではあるんですが、第5波、かなり厳しい波になるかというふうに思います。現在のところはまだ入院の受け入れは、要請もないんですが、いずれは、近いうちにもこれは受け入れる状況になってくると思っております。その心の準備、それから医療体制の準備などについてもしっかり指令をやっているところであります。

また、数によっては今の病床数だけでは足りないということになってくると、これはかなり大きな改修をしなければいけないということにもなってくる。非常に、そういった事態になることはかなり頭が痛い状況で、何とかそうならないように、予防的なこと、それから啓蒙的なこと、そしてワクチン接種の一日も早い普及といったことにも貢献して、そうならないような形で、今の病床で足りるぐらいの波に収まればというふうに、いろんな面で努力していきたいと思ってます。

**板橋委員：** よろしく願いいたします。もう一つ聞かせていただきたいのが、危機管理の面で、私、何度もこの会でお話させていただいてるんですけども、職員の方の靴の問題がとても気になってるんですね、靴。お仕事されているときの靴で、私、歩き方のレッスンをしております、靴をちゃんと履くという指導、医療関係の方が結構いらっしゃって、ある病院の看護師長さんが靴の大切さを知ったということで、病院の職員の靴を、つかげ風ではなくちゃんとしたシューズを履いて、火事があって患者さんを移動させるっていうときとか、この辺は水害は大丈夫かなとは思いますが、何かあったときに患者さんを助けるためにはしっかりした足元をつくっておかないと、職員の方も疲れて力が発揮できないということがあると思いますので、そのあたりをもう一度検討していただければなということ、ちょうどここに危機管理ということが書いてありましたので、ちょうど受講生の方がそのお話をしてくださったので、これはひとつお伝えしたいなと思いました。

**多田理事長：** 靴は盲点だったと思います。本当に足元を、明日からみんなの足元をよく見ておきたいと思います。看護師さんは大丈夫だと思うんですけどね、時々医者が、つかげとかね、穴の開いたああいうのを履いてて、何かぼてっとならないのかなと思ったりするのがありますので、すぐ、看護師さんの方の靴にも、一度また持ち帰って、明日またチェックしたいと思います。ありがとうございました。

**内藤委員長：** ちょっと私の方から板橋委員にお聞きしたいんですけど、しっかりした靴っていうのは、サンダルではなくてちゃんとしたシューズっていうことですね。

**板橋委員：** そうです。シューズです。

**内藤委員長：** サンダルとかね、今までは使ってるが多かったですが…。

**板橋委員：** サンダルであったり、名前を出していいかわかりませんが、クロ

ックスという商品を、よく病院に伺うと履いてらっしゃいます。受付の方はスカートなどを履いてらっしゃるからナースシューズのようなのを履いてらっしゃいますが、看護師さんであったりとかリハビリの方であったりとか、ほんとに何かあったときに患者さんを助けなきゃいけないっていうとき、足元がずるずるしてしまいます、つっかけであったりクロックス…。

**内藤委員長：** サンダルでもちゃんと留まってればよろしいんですか。

**板橋委員：** できたらシューズの方が。ほんとは紐靴がいいんですけど、もしあれだったらマジックテープでしっかり留めるっていう方法でいかれると、患者さんを助けるっていう意味もあるんですけど、職員の方自体が疲労度が全然違うんですね。そして接遇も、何か所かにたくさん出てましたが、接遇においても足元がちゃんとしてれば姿勢も整いやすく、やる気があるように見えるというのがとっても大切だと思ってるんですね。つっかけであったり足元がゆるいと姿勢がどんどん崩れていって、心ではやる気があったとしても、周りから見たときにやる気があるように見えないということが起きてきますので、その面においては、接遇の面ではこの病院に来たら気持ちがいいよとか、元気そうにスタッフの方が働いてらっしゃるっていう姿を目にしたときに、この病院がいいわっていう感情が、皆さん、姿勢がどうのこうのとは思われないかもしれないんですけど、すごく生き生きと見えるということがありますので、その辺はね、余り関係ないじゃないかとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、仕事をしてますと、本当に人生が変わっていくっていうぐらい、足元がちゃんとしていると、皆さん変化されます、体調も良くなりますし。仕事に取り組む姿勢が違うのではないかなというのでもう一度発言させていただきました。

**内藤委員長：** ありがとうございます。最近では、看護師さんは普通のしっかりした靴を履いておられる方は結構多いかと思えますけれども、クロックスとか、ちょっと見た目も今一つと思えますので、その辺は特にドクターの方があれなのかもしれませんね。

ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

石原委員、お願いします。

**石原委員：** すいません。一つ伺いたいことがございまして、資料4のところに、災害対策の課題のことが触れてあるんですけど、これはどういう内容か教えていただけますでしょうか。

**事務局：** それでは、事務局の医療政策課の皿田です。

昨年度につきましてはコロナ禍ということで、防災訓練であるとか、中期目標、中期計画では、消防署と連動した避難訓練であるとかそういったことを記載はしてあるんですけど、そういったことがずっと課題として残っているということで指

摘をさせていただいたのと、あと備蓄、大規模災害が起きたときに、入院患者さんの食事であるとか、あと水、透析なんかですと、やっぱり水とか電気が重要になってきますので、そういった点を含めまして引き続き努力をいただきたいということで書かせていただいております。

**内藤委員長：** ちょっと私の方から質問というか、コロナの患者さんを受け入れる体制はできてるといことなんですけども、今第5波でかなり東京の方は患者さんも増えていると。その影響はこちらへも今来ているという状況ですけども、コロナの患者さんを受け入れるということになった場合に、満床ですと受け入れて、それを維持することができるのかどうか。長期になった場合に、スタッフの疲弊度とか、そういった面ではいかがですか。

**多田理事長：** 看護師さんの方の体制で、当初6床で、看護師さんが、日勤2名、夜勤一人ということだったんですけど、だんだん重症になってきたりすると、1名の夜勤では無理だなということで、また今度については、重症度に応じては人数を、どこかの部署から募って投入するというような形をしていかなきゃいけないかなというふうに思ってます。

それから医師についても、最初はどのようなふうな対応をしなければいけないかっていうのを身をもってしたいということで、副院長の中山先生が主に一人で担当されるというような状況。それで担当をしながらいろんな改善点を見つけて改善していくようなことをされてたんですけど、そういった蓄積したものは、今後は業務をシェアして、医師の方も何人かが対応できるような形をつくっていききたいというふうに思っております。

**内藤委員長：** 看護師さんが疲れて辞めるというようなことになるとまた大変なことになりますし、何とかその辺をケアしていただければと思います。よろしくお願ひします。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、特に木内委員からは財務のことで、前年との比較だけではなくて5年分を比較して、それをグラフとかわかりやすく、市民の方が目にしてこういう感じで良くなってるんだなというのがわかるようにしていただければいいのかなと思います。そういったことも含めて御検討いただければと存じます。

令和2年度の業務実績評価取りまとめについては、最終的な評価結果について、また改めて各委員にお示しいただければと思いますので、お願ひいたします。

~~~~~

**内藤委員長：** それでは、続きまして(2)の報告事項についてを議題といたします。

『① 令和3年度年度計画』について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局：** それでは、資料6でございますけれども、病院機構の方から提出いただき

ました令和3年度の年度計画書を添付をいたしております。

皆様には、事前に資料を送付させていただいておりますので、詳細は割愛をさせていただきますけれども、この年度計画に基づきまして、令和3年度の病院運営等が進められているということでございます。

以上です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。この件について何か御意見はございますでしょうか。特にございませんでしょうか。

先ほど説明の中にもありましたけれども、4月からの状況というのも説明があったと思いますので。

石原委員、よろしくお願ひします。

**石原委員：** すいません。令和3年度に何か設備で大きなものを御予定をなさってましたら教えていただければと思います。お願ひします。

**小森事務局長：** 令和3年度の投資計画は過去最少ぐらいの医療機器の更新ぐらいになってまして、大きいのは、令和2年度に計画してた府中北市民病院の屋上の防水工事、あれを令和2年度でなく今年度、令和3年度にすることになりますので、それが約5,000万円ぐらいですかね、それが大きい投資になります。以上です。

**内藤委員長：** そのほかございますでしょうか。木内委員、何かございますか。

**木内委員：** ちょっと今のところございません。声が割れて中の議論が聞こえにくいところがちょっとあって、いただいた資料を追いかけて一生懸命見ております。すいません。

**内藤委員長：** よろしくお願ひします。ドクターが増えたということで、明るい材料とは思いますが、ドクターの高齢化というのも進んできてるようで、その辺もなかなか、将来についての、今年度だけではなくて。

**多田理事長：** その辺は非常に大きな問題であります。でもことしの4月からは、1年間ではありますけれど、内科の専門医を目指す専攻医の先生が久々の20代と。それから、今後はそういう地域枠の先生方、それから府中市の奨学金の先生方が研修医として、また常勤として順々に来られるというふうに見込んでおりますので、将来的には、少しはそういう明るい材料もございます。

**内藤委員長：** 奨学金で今度来られる人はいつが最初でしたかね。

**事務局：** 今福山市民病院の方で初期研修の1年目に入っております、最上級生で。今大学6年生にまた二人いらっしゃいます。

**内藤委員長：** そういう意味で明るい材料がありますね。そういう方が府中市民病院に来られて、ここがいいなと、ずっと勤めていきたいなというふうになってくれればいいなと思います。そういう環境もつくっていただければと思います。

特に御意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。板橋委員、何がござ

いますか。よろしいですか。石原委員、追加がございますか。

**石原委員：** すいません、じゃあ。資料を拝見すると、病院の将来像をつくるのが、これからお考えになるような、検討なさるような記載がいくつかあったんですけども、この点について何か、お考えとございますか、今の状態がこういう感じっていうのがありましたら教えていただければと思います。

**多田理事長：** 府中市民病院、北市民病院ともに、一言で言うとケアミックス、急性期、救急から慢性期、在宅医療まで幅広い守備範囲で診る医療というのが、今もそうだし将来的にもそういう方向を目指して、さらにブラッシュアップしてより精度の高いものを目指していきたいと思います。

一言で言えば、一人ひとりの患者さんの人生に寄り添えるような病院になっていけばいいなというふうに思います。一つだけの病気だけではなく体全体、そして各年代、年を経るごとに増えてくるような問題、病気について相談に乗り、またそれに対応できるような病院でありたいなというように思っております。

**内藤委員長：** 木内委員、よろしくをお願いします。

**木内委員：** 広大病院の木内ですけれども、病院の将来像っていうのを考えるに当たって、やっぱり大切なのは、病院の将来でなくってまちの将来、府中市がどうなるんだ、将来市がどういうふうな産業構造でどういう発展を進めていく、どういう方向へ進んでいくっていうのがわからないと、それに沿って病院も添い遂げる姿勢が変わっていくんじゃないかというふうに思います。

ですので、これは市長に、難しい質問をしちゃったような感じで申し訳ないんですけど、そういったところを目安にしていけますと、病院の将来についても描きやすいのかなっていうふうに思いました。私の意見は以上です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。小野市長。

**小野市長：** 貴重な御提案をありがとうございました。正に先生がおっしゃるとおりで、府中市が持つ課題としては、少子高齢化が避けられない状況ではありますが、そうした中であって、やっぱり医療を含めた地域を守るということでは、やっぱり病院と連携を取りながら、一緒になって取り組んでいきたいとは思っております。ありがとうございます。

**木内委員：** 府中市の魅力を高めて、少子高齢化といってもそうでなくって、やっぱりみんなが住みたくなる府中市っていうのができるといいなと私は願っております。

**小野市長：** ありがとうございます。それを目指して取り組んでいきたいと思います。

**内藤委員長：** 小野市長、宿題が出ましたね。それではほかに御意見はございませんでしょうか。

ないようでしたら、以上で本日の議題は終了ということにさせていただきます。

それでは、委員の皆様、御協力ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

~~~~~

**進行：** 内藤委員長様、大変ありがとうございました。また委員の皆様方におかれましても、活発な御議論をいただき誠にありがとうございました。

最後に、閉会に当たりまして、石原副委員長様からごあいさつをお願いしたいと思います。よろしくお願いいいたします。

**石原副委員長：** それでは失礼します。府中市病院機構の評価委員会ということで、御多用の中お集まりをいただきまして、委員の皆様、先生を初め市の方々、どうもありがとうございました。お疲れさまです。

議論の中でもよく出てきておりますように、やっぱり地域にこういう入院施設があって、特殊な病気といいますか、感染症、コロナウイルスの感染症のようなものが流行ったときには、やっぱり頼りになるのは、しっかりした入院施設、しかも経営的に安定をしてるといいますか、持続している入院施設があるというのは非常に安心ができますし、住んでるの方々には心強く思われるんだろうと思います。

この病院機構ができるときに、もうこれが、こういう構想がなかったら恐らく入院施設がなくなってたんじゃないかと思うんです、府中の市内に。それが、広島大学の方々と岡山大学の方々に御協力をいただいて、独立行政法人っていう形でこういう立派な病院が存続できてる、しかも上下町の病院と府中市の病院と両方存続できてるというのは大変ありがたいことだというふうに思います。

ただ、なかなかこの感染症に対応なざるスタッフの方々は大変だと思うんですけれども、特に院内で感染対策をなされながらその治療をなさるっていうことなので、すごく大変だと思うんですけれども、課題は今日もたくさんありましたが、ぜひ頑張ってください、地域の公立病院っていうことで、持続してお仕事を続けていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

本日はありがとうございました。

**進行：** 大変ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和3年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会とさせていただきます。

午後8時5分

~~~~~